

平成 21 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006 年度 ～ 2009 年度
課題番号：18530320
研究課題名(和文) 20 世紀日本のビジネスエリート輩出システムに関する歴史・実証分析
研究課題名(英文) Historical and Empirical Studies of the Education Systems of Business Elites in the 20th Century
研究代表者
日夏 嘉寿雄(HINATSU, KAZUO)
帝塚山大学・経営情報学部・教授
研究者番号：20258180

研究分野：社会科学(経営学)

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：ビジネス教育、人材育成、ビジネスエリート、高等教育機関、実業教育

1. 研究計画の概要

本研究は、日本の経済発展を担ってきたビジネスエリート養成機関(特に、高等教育機関)に焦点を当て、経営教育の重要性を見出し、ビジネスエリート輩出のメカニズムを探ろうとするものである。

明治期から戦後の高度成長期までの約 1 世紀間のビジネスエリート(企業経営のキーマンとしての幹部社員)を養成してきた高等教育機関の教育理念・制度・教育内容と卒業生の活躍動向などについて時系列的に分析し、戦前・戦後のビジネス教育及び実業教育の連続性と不連続性、経営教育の実態と理想的あり方を歴史的・実証的に研究しようとするものである。

そのためには、関西地区の高等商業学校、商科大学、旧制私立大学に的を絞り、地域経済・財界との結びつきを考慮しながら、経営教育とビジネスエリート(卒業生)輩出の関係を考察していく。

具体的な研究計画は、初年度は明治・大正期を中心とした資料収集・整理と分析、次年度は戦前期までの資料収集・整理と分析、第 3 年度は戦後期における資料収集・整理と分析、最終年度は収集した資料のデータベース化と分析結果の公表を計画している。

2. 研究の進捗状況

資料収集とそれを補強するヒアリング調査は各年度ごとにほぼ計画を達成できていると判断している。しかし、収集した資料には斑があり、かなり詳細な資料収集に及んだところと極めて概略的な資料にとどまっているところがある。一層の資料収集による弱点の補強が必要である。

特に、収集した資料のデータベース化は遅れている。逐次コンピュータ処理する方向で動いているが、収集データ量と比較すると遅れている事実は否定できない。現在も、適宜努力しているが、量的膨大さからなかなか追いつけない。

分析に関しては、それぞれの視点で担当者ごとに分析し、情報の共有化を図っているが、まだ研究チーム全体の共通結論には至っていない。個々の部分では分析も進み、成果報告も行われている。

3. 現在までの達成度

研究計画と研究の進捗状況から判断して、第 3 年度までの達成度は、資料収集に関してはおおむね順調に進展している。収集資料のデータベース化は遅れている。分析・検討に関してはおおむね順調に進展しているものと判断している。

現在、データベース化について一層の努力を図っているところであるが、なかなか追いついていないのが現状である。

4. 今後の研究の推進方策

データの収集に関しては、当初の関西地区中心の高等商業学校から、その競合関係にある北陸・中部・中四国・九州までの範囲で主なビジネス関連高等教育機関の資料収集を行うことが出来た。今後は分析上補強が必要な部分についてのみ補足的におこなう予定である。

収集した資料のデータベース化が遅れているため、この点に関しては特に力を入れて実施していく予定である。データベースを活用することにより、これまで見落としていた

かもしれない部分の精査をさらに進める。

高度成長期を支えた経営者群は、戦前に創設された高等教育機関末期の卒業生や戦前の理念・教育を引き継いだ終戦直後の新制化された大学教育を受けた人たちであった。彼らと、高度成長期に大衆化の進んだ大学などで教育を受けた現在のビジネスエリートとの比較を行い、その異同を検討し、ビジネスエリート育成の本質を見つけたい。

最後は、これまでの研究成果が公表できる機会を作りたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

日夏嘉寿雄「日本造船業成熟期の経営低迷と再生」『帝塚山経済・経営論集』無、第17巻、2007年、17～38頁。

梶本元信「私立大学の創業・発展の担い手と関西の実業家たち - 戦前の関西大学を中心として - 」『TEZUKAYAMA University Discussion Paper Series』無、J152、2007年、pp1～20。

山田雄久「近代陶磁器企業の経営発展 - 佐賀県有田町香蘭社の経営 - 」『佐賀大学リーフレット』無、2008年、1～8頁。

日夏嘉寿雄「学制とビジネスエリート教育」『帝塚山経済・経営論集』無、第19巻、2009年、25～50頁。

山田雄久「佐賀県伝統企業の経営発展 - 有田町香蘭社の事例を中心に - 」『佐賀大学地域経済研究センター所報』無、平成20年版、2009年(原稿完了提出済み、6月発刊予定)

〔学会発表〕(計 2件)

山田雄久『陶磁器輸出の進展と企業家の役割』経営史学会関西支部大会・2007年8月1日・大阪市立大学。

梶本元信『関西の私立大学と実業家たち』経営史学会関西支部・2007年11月24日・京都大学

〔図書〕(計 1件)

Takehisa Yamada, OXFORD University Press
'The Export-oriented Industrialization of Japanese Pottery :The Adoption and Adaptation of Overseas Technology and Market Information.' "The Role of Tradition in Japan's Industrialization."

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

研究分担者の山本貴之は一身上の都合により帝塚山大学を退職し、研究職から離れたため、最終年度の研究には参加できなくなった。しかし、これまでの研究会やヒアリングで、共同研究者として参加していただいたメンバーが数名居り、彼の分担部分を埋める役割を果たしていただけることになっているので、所定の研究目標達成にはいささかの支障も生じないことを付け加えておきたい。

以上